

つくしだより



平成24年7月号

東京都精神障害者家族会連合会
(東京つくし会)

〒156-0056
世田谷区八幡山3-33-1
林マンション202

TEL/FAX:03-3304-1108

発行者 野村忠良

2012.7.15 第265号

こころの健康基本法(仮称)の法制化を求める国会請願署名提出集会開催される

都連副会長 小笠原勝二

2010年5月にまとめ上げたこころの健康政策構想会議の提言の実現に向け「こころの健康基本法」の制定を求める国会請願署名を皆様のご賛同を得て活動を続けてきました。この署名をいただいたみなさまの思いを国会に届けるべく、6月6日(水)、「こころの健康基本法の法制化を求める国会請願署名72万筆提出集会」が衆議院第二議員会館で開催されました。

会場前方に積み上げられた72万筆超の署名には改めて圧倒される思いでした。全国から参集した230名を超える当業者、家族、支援者などで会場は埋め尽くされました。

多数の国会議員の方々が参加され、法制化を支持する発言が続きました。引き続きこの会を主催した構成団体の家族および当業者代表の方々から、この署名を提出する意義、「こころの健康基本法」法制化を望む想いなどが語られました。

家族ということで見守り続けな

ければならない過酷さ、当事者からも、背負ってしまった苦境、実体験、みんなにわかってほしい「心の病になってしまったときの大変さ」などが訴えられました。これらのメッセージは、参加されたみなさままで共有され会場は熱気に包まれ、基本法制定への期待の高まりとともに大きな一歩を踏み出した日となりました。

集会の後は、署名の紹介議員をお願いするため、議員の部屋へ署名用紙を持っていくことになりました。事務局に集められた署名は都道府県別に整理されていたため、各地から参加された方々はおのずとご自分の地域の署名を手に取り、その地元選出の議員を訪問されていたようです。しかし、いろいろな事情で受け取ることを固辞される議員もおられました。それでも怯まず、議員会館を廻ってお願いしました。このようなお願いは夕方遅くまで続きましたが、配りきれない署名が残りました。しかし、約一週間後の13日、東京つくし会関係の家族会有志のご協力で、全て請願として受けていただくことができましたことは、うれしくまたみなさまに感謝しております。

今後はこころの健康推進議員連盟を中心に法制化に向かって、こころの健康基本法の法案骨子に対するヒアリングをおこなった団体からの意見、提案などに対する検討を行い、この法案を確定し国会提出へと進むものと思われま。しかし、みなさまご存知のように現在の国会状況は社会保障・税の一体改革関連法案をはじめ、種々の重要法案の審議が大幅に遅れ、またその国会の状況は政局がらみの様相で混沌としており、安心できる状況ではありません。

いずれにしても私達がひたむきに「こころの健康基本法」の法制化に向けて行動したことは、多くの方々に確かなメッセージとして残したことは事実であり、国会での動向を見守り制定を祈るのみです。



(72万筆の署名と、参加者のみなさま)

平成24年度評議員会を開催して

都連理事 鈴木孝男

平成24年6月15日(金)世田谷区立鳥山区民会館に於いて平成24年度東京都精神障害者家族会連合会(東京つくし会)評議員会が開かれました。

開会の挨拶として野村会長から家族会連合会の役割について話をしました。

今年は無数の来賓の方がお見えになり(敬称略)①民主党、斉藤あつし ②自由民主党、吉原修 ③公明党、栗林のり子 ④日本共産党、たぞえ民夫 ⑤東京都から、大滝伸一 ⑥みんなねっと、川崎洋子 ⑦相談役、榎本稔 ⑧元つくし会会長、高山秋雄の皆様からご挨拶をいただきました。私たちが運動してきた「こころの健康基本法」について、多くの来賓の方々から評価され、今後の運動への期待がのべられました。

議長として松澤副会長が選任された後、議事に入り、第一号議案(平成23年度事業・活動)の報告があり承認、第二号議案(平成23年度決算・会計監査)の報告があり承認されました。

第三号議案として(平成24年度事業・活動計画)が提案され審議に入りました。多くの質問や意見が出され、可決されました。主な質問や意見は次の通りです。

- ① JDFとは
- ② 自立支援法から総合支援法になったが、その中身はどう変わったのか。
- ③ 都の精神科救急体制には、多くの問題がある。「ひまわり」は役に立たない。
- ④ アウトリーチについて
- ⑤ 家族会の活性化と家族会の役割
- ⑥ 相談員養成講座を充実させ、活性化の一助にしたい。
- ⑦ こころの健康政策構想実現会議について。



活発な質疑応答が行われた評議員会

第4号議案(平成24年度予算案)が提案され審議に入りました。二つほど質問がでしたが、可決されました。

第5号議案(平成24年度東京都精神障害者家族会連合会役員名簿)が提案され(敬称)所属団体名略)理事として石川和子・小笠原勝二・川崎洋子・鈴木孝男・塚本邦之・徳山尚子・野村忠良・増田公子・松澤勝・松原のり子・三浦八重子、(監事)三浦勝之・小松田博が推挙され、可決されました。

第6号議案(会則改正案)が提案され、第6条・第9条・第12条の改正が可決されました。

その後、会長 野村忠良、副会長 小笠原勝二・川崎洋子・松澤勝・松原のり子 会計担当 松原のり子を理事の互選で定め、報告しました。平成24年度野村新会長から平成24年度も活発な運動を行うという理事全体の意志を代表して挨拶をし、閉会となりました。

以上、平成24年度東京つくし会評議員会報告をいたします。



3ブロック交流会の報告

都連副会長 松原のり子

去る6月15日(金)、世田谷区立烏山区民会館にて「3ブロック交流会」が開催されました。東ブロック・西ブロック・多摩ブロックの3ブロック制を始めてから3年余が経過しました。この間の振り返りをし、今後の活動の発展を目指して話し合いました。

当日は59名の参加者があり(東17、西15、多摩27)、各ブロックが混在する九つのグループに分かれて交流しました。

その内容は豊富で全てを紹介することはできませんが、その要旨を報告いたします。

1. ブロック会議の反省と今後のとりくみについて

①ブロック会議での情報交換は、近隣の会の様子を知ることができ、親睦が得られ、行政とのかかわり方、要望書の出し方を学ぶことができ有意義である。

②情報交換の重要性をかみしめている。自分の会のことと精いっぱいだったが、ブロック会議で他の会の活動を知って、自分の会を見つめ直す良い機会となった。

2. 今回の「3ブロック交流会」について

①日頃交流のない3ブロックのメンバーが一堂に集い、お互いに情報交換することとは大変有意義だったし、楽しかった。1〜3年に一度このような企画をしてほしい。

②今回のように小グループ制(5〜8名)だと、全員が発言できてよかった。

3. 家族会の活性化について

①七〇代から八〇代が役員をしている家族会が多く、若い人に入会してもらい、若い役員を育てることが大きな課題である。

②バスハイクや飲み会など楽しいイベントを工夫したい。

③心と力のある家族相談員を養成して相談会を充実させ、会を活性化させたい。

④活性化に欠かせない補助金が減少している中で、財政の充実が大きな課題だ。

⑤「おやじの会」など男性会員を増やす工夫をする。

⑥会報の送付時に手紙を書くなど普段からこまめな活動を心がける。

4. 東京つくし会への要望

①単会ではできない社会的問題の解決へ

向けてがんばってほしい。

②家族相談員の養成講座を頻繁に本腰を入れて開いてほしい。

③当事者の年代別グループ分けの情報交換の場も考えてほしい。

④家族会の存在と役割の重要性を考え、都内52単会のまとめ役に力を尽くしてほしい。

☆その他

①アウトリーチ②当事者の参加について、③家族会が運営する事業、④民間機関の支援利用について、⑤他の障害者団体との連携についてなどの意見も出されました。

◎日々多忙で困難な活動に献身的に取り組んでおられる皆さんが、この交流会に参加され生き生きと発言されたことに感動し、心から感謝いたします。



「ローマは一日にしてならず」

都連理事 塚本 邦之

言うまでもなく、海外への旅行や海外の著作を読むことによって学ぶことが出来る事柄は多い。私事で恐縮だが、私は20歳代の時、イタリアへ留学の機会を与えられたことに深く感謝している。特に精神障害者への国家的施策で先進国の一つに数えられている同国でこの事柄に関する歴史に触れて、「ローマ（歴史）は一日にしてならず」の言葉を身近に感じている。

それは特に近代イタリアが建国される数世紀も以前の14世紀中葉にベネチア共和国という小国で起こった事柄であった。現在の同国に於ける統合失調症患者の人格尊重への萌芽といえることを学んだ時である。



当時のベネチアの商人でまた探検家で「東方見聞録」の著者として知られているマルコポーロの家族の物語であった。マルコは帰国後著作を残して1324年病死したが、娘は精神障害を患っていた。しかし当時のベネチア共和国は精神障害者に人格を認めず、財産相続の権利を剥奪していた。この事態に対して、マルコの妻は人権尊重の立場に立ち、法廷で相続の権利を主張し、娘のためにそれを勝ち取ったと伝えられている。

講演会のお知らせ

★賛助会費★

堀 澄清様	1口	2,000円
高野 喜代子様	1口	2,000円
鈴木 新治様	2口	4,000円

ありがとうございます。

(平成24年6月1日〜30日現在)

日程 及び 内容

主催者名

わかさ家族の会
Tel:042-634-7281

7/19(木) ~地域生活を支えるとりくみについて~
「るえか式心理教育&リハビリについて」
ひだクリニック副院長 木村尚美氏 他3名

稲穂会

Tel:042-378-696

7/19(木) 「精神科のくすりについて」
稲城台病院副院長 永野 満氏

杉並家族会

Tel:03-3392-7946

7/24(火) 地域で楽しく暮らすには!
~巢立ち会の活動を通して~
社会福祉法人 巢立ち会理事長 田尾有樹子氏

※参加申込み、お問い合わせは、それぞれの主催者へお願い致します。

編集後記

平成24年度の評議員会は、評議員の皆様のご協力のもと無事終了し、本年度の東京つくし会の活動が本格的にスタートしました。

今年度は、都議会議員4名が来賓としておいで下さりおひとりおひとりから励ましの「挨拶をいただきまし。全員が「挨拶の後すぐ帰られたのは残念でしたが、家族会を代表する大勢の評議員の前に立たれた時は、私たち家族の熱意をじかに感じて下さったのではないのでしょうか。

承認していただいた東京つくし会の膨大な活動計画は、事務局と理事11人でこなしていくのはとても困難です。これまでに以上に各単会の会長さんはじめ、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

そして、来年度の評議員会では定数15名の理事でスタートできますようお願いしています。

都連理事 石川 和子

